

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo : Topps Card

《 Rodney Hampton 》

今年の秋、9月20日から11月2日まで「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」が開催された。第9回目でアジアでは初開催。また、ティア1以外の国での初開催となったが、日本が悲願のベスト8入りを果たしたこともあって、日本中で異常なほどの盛り上がりを見せた。

自分は完全ににわかファンだったが、ルールがイマイチ分かりづらい点もありながらその迫りに圧倒され、熱戦に釘付けにされてしまったにわかファンも日本中に溢れていたようだ。ワールドカップが始まるまでは、せいぜいキャプテンのリーチ・マイケルを知っているくらいで、前回大会で活躍して露出が多かった五郎丸はどうしてメンバーに入っていないんだという程度の知識しかなかった。

ちなみにアメリカ代表も出場していたが、アメリカではほとんど話題になっていなかったようだ。特にアメリカでは、NFL（ナショナル・フットボール・リーグ）でお馴染みのアメフトの人气が絶大で、ラグビーは眼中にないという人がほとんどだったのかもしれない。アメリカではNFL以外に、八村塁の活躍が注目されているNBA（ナショナル・バスケットボール・リーグ）、大谷翔平の活躍が注目されているMLB（メジャーリーグベースボール）にNHL（ナショナル・ホッケー・リーグ）が人気プロスポーツと言えるだろう。

ニューヨークで生活していた時もNFLの人气はもの凄かったが、NFLに関しても自分は完全ににわかファンだった。ニューヨークには「ニューヨーク・ジャイアンツ」と「ニューヨーク・ジェッツ」という2つのチームが存在していたが、4年間のニューヨーク生活で1回だけニューヨーク・ジャイアンツの試合を見に行ったことがあった。にわかファンではあったが、ニューヨーク・ジャイアンツに好きな選手が1人いた。

その選手は背番号「27」のロドニー・ハンプトン。ジョージア大学でランニングバックとして活躍し、1990年のドラフトでニューヨーク・ジャイアンツが1巡指名した選手だった。1990年から1997年までニューヨーク・ジャイアンツで活躍した。ロドニー・ハンプトンが好きになったのは、単純に自分が好きな番号「27」を背番号にしていたからなのだが、その後、日曜日に部屋のテレビでニューヨーク・ジャイアンツの試合を時々見るようになり、Toppsというメーカーのトレーディングカードを買うまでになっていた。

また、ニューヨーク・ジャイアンツのユニフォームは鮮やかなネイビーブルーを基調に赤と白のラインが入ったデザインだったが、その色合いとイメージが何となくだが、幼い頃に見て大好きだったウルトラマンタロウの隊員のユニフォームに似ていたことも、ロドニー・ハンプトン好きに拍車をかけた。大男ばかりの中、小柄ながら俊敏な動きで鮮やかなグリーンの上を駆け抜ける背番号「27」の勇姿は今も忘れない。

1997年に自分はニューヨークを引き上げて日本に帰国したが、ロドニー・ハンプトンも1997年のシーズンを最後に引退していたことを数年後に知った。日本に帰国してからアメフトの試合はほとんど見ていないが、ロドニー・ハンプトンはニューヨーク生活で唯一アメフトのにわかファンにさせてもらった自分のヒーローだった。